

現状は「下降」超、先行きは「上昇」超

県内企業の景況感
財務部が平成十一年十一月に
県内の資本金一千万円以上の法
人企業(金融・保険を除く)を対象
に実施した大蔵省景気予測調査
結果の概要を紹介します。

一 景況判断

現状十一(年十～十一月期)では
製造業で「上昇」超幅が拡大して
るもの、ウエイトの高い非製造業
で「下降」超幅が拡大してからと
かく全産業では「下降」超となり
いる。

先行きについては、十三年一～三
月期は製造業で引き続き「上昇」
超で推移するものの、非製造業で「上
昇」超に転じることから、全産業で
も「上昇」超に転じる見通しとなっ
てある。

十三年四～六月期は製造業でわ
ずかながら「下降」超に転じるもの
のウエイトの高い非製造業で「上昇」
超で推移することから、全産業では
引き続き「上昇」超で推移する見
通しがなっている。

造業とも増収とみており、全産業では
は三・七%の増収見込みとなつて。
堅企業では「減少」超に転じた後、再
び「増加」超に転じる見通しとなつて
いる。

二 経常損益

十一年度下期は、製造業で増益と
みているものの、非製造業で大幅な
減益とみて、「」とかく全産業では
十一・四%の減益見込みとなつて。

十一年度通期は、製造業で増益と
みているものの、非製造業で減益とみ
て、「」とかく全産業でわずかなが
か一・〇%の減益見込みとなつて。

三 従業員数

現状では、製造業で「不足気味」
超に転じているほか、非製造業で「不
足気味」超幅が拡大していることか
ら、全産業でも「不足気味」超幅が
拡大して。

先行きについては、製造業で「過剰
気味」超に転じるもの、ウエイトの
高い非製造業で「不足気味」超で推
移することから、全産業でも「不足
気味」超で推移する見通しとなっ
て。

じるもの、大企業で「減少」超で推
移した後、「増加」超に転じるほか、中
堅企業では「減少」超に転じた後、再
び「増加」超に転じる見通しとなつて
いる。

四 金融機関の融資態度

現状では、中堅企業で「きびしい」
超で推移しているものの、大企業で「き
びしい」超幅が縮小して、「」超に転じて
いる。小企業では「ゆるやか」超に転じて
いる。

先行きについては、中小企業で「き
びしい」超に転じるほか、大企業、中
堅企業では「きびしい」超で推移する
見通しとなつて。

五 資金繰り

現状では、中堅企業、中小企業で「悪
化」超で推移しているものの、大企業
では「改善」超に転じて。

先行きについては、大企業で「改善
超で推移するほか、中堅企業、中小
企業では「悪化」超で推移した後、「改
善」超に転じる見通しとなつて。

BSIとは
景気動向指数(ビジネス・サービス
インデックス)をいい、
秀見方は次のとおりです。
BSI-II(「上昇」等と回答した
企業の構成比)ー(「下降」等と
回答した企業の構成比)

六 所定外労働時間

七 中期的な経営課題

現状では、大企業で「減少」超に転
じるもの、中小企業で「増加」
超で推移しているほか、中堅企業では
「増加」超幅が拡大している。

先行きについては、中小企業で「増
加」超で推移した後、「減少」超に転
じる。

